

しらおか男女共生広報紙

ハーブティ

ひとひと
～女と男をかんがえる～

2007.3
Vol.17

ハーブティ：「ハーブ (herb)」は香草のことで、茎や葉を生あるいは乾燥して使い、これが心と体にもよいバランスのとれた刺激を与えることから、女と男がバランスのとれた関係であるように、また一杯のお茶から地域のネットワークが広がれば・・・という願いがこめられています。



子育ても仕事も
奮闘中のママたちが語る
「とりあえず やってみようよ!!!」

子育ても仕事も奮闘中のママたちが語る 「とりあえず やってみようよ!!!」

「子育てって大変！みんなどうやって乗り越えたの？」という素朴な疑問から、子育ても仕事も奮闘中のママたちへのインタビューを企画しました。子育てのコツ、仕事とのバランス、家族や地域のかかわり、息抜きなど、子育て真っ最中の方やこれから子育てをはじめの方への良きアドバイスになればと思います。

職場復帰

双子を育てていくこともあり、出産前に退職し育児に専念。子どもが2歳になるころ、ストレスがピークになり「このままでは自分がダメになる！」と、仕事を意識しはじめた。そんなとき、以前勤めていた会社から「欠員が出たので戻って来てほしい」と電話がきたのがきっかけ。



三宅恵子さん
(野牛在住)
家族：夫、長男、次男（小6）

さて、仕事があっても預け先が決まらなくては。車は運転できないし、自転車の送迎では雨の日が大変。公立の保育園は、いっぱいみただし。どうしようかと思っていたところ、バスで送迎してくれる私立の保育園があることを知り、預ける事ができた。もし送迎してくれる保育園がなかったら復帰できなかったかもしれない。三宅さんの事情を知っているので、保育園の送迎時間に合わせた午前9時半から午後3時まで希望どおりに決まった。勤務は都内、電車通勤。



1日36時間あったらいいのに!

どこで手を抜いて何をちゃんとしたらいいのか、優先順位を常に考えていた。手を抜くのは、掃除。お風呂は双子なのでケガをさせないように神経をつかう。子育ては毎日新しいことばかりで、大変と思うひまもない。夫は当時家で仕事をしていたので病院に連れて行ったり、忙しい時にはとても協力的だった。

子どもたちが保育園年中組のとき蓮田から実家に近い白岡に引っ越し、「もしも」のときには実家に頼ることができるので気持ちの上で安心。今は小6になり残業で遅くなる時は、ご飯を炊いてお味噌汁を作ってくれたり、とても頼りになる存在。

タイミングと行動力!

今は、野球をしている子どもたちのお手伝いで夫も私も忙しい毎日。余裕ができれば、運転免許を取りたい。それから、おしゃべりでストレスをためないこと！とりあえず行動を!

なんとんでも健康第一

今は元気な男の子三人だが、やはり幼少時は病気はつきもの。急な発熱で保育園から職場に電話がかかることもしばしば。風邪なども一人治ったかなと思うと、次々にかかり、3人完治するのに3週間かかってしまうことも。「お願いだから、かかるときはいっぺんにかかってよ。」と、つい愚痴も言いたくなるほど。今は、子どもの健康同様、自分の健康も大事なので、体調管理もしっかりと、ふだんから予防など気をつけている。



折原リサさん
(高岩在住)
家族：夫、長男（中1）、次男、三男（小3）、義母

周りに感謝

努力してきたとは思っていない。子どもたちが小さいうちは勤務時間短縮で、午後4時に退社させてもらったりしたし、何より義母の助けは欠かせないものだった。義母の力なくしてとても仕事を続けられなかったし、今後も同じ。義母が入院した時はそれはもう大変だったが、周りの方々に支えられて、何とか乗り切れた。保育園の先生方、近所の方、友人、同僚のあたたかさに触れて感

謝の連続。そんなとき子育ては一人で抱え込むより、周りとの助け合い、地域やみんなで育てるといった感覚を持てた。今は私が子どもだったころと比べたら昔ほどの近所ぐるみの付き合いが少なくなった気がして、少しさみしい。

最近は、子どもたちがいろいろとお手伝いをしてくれるようになった。野菜炒めを作ったり、風呂掃除、洗濯物取り込み・たたみ、お布団敷きまで。子どもの成長にびっくりさせられる。

子どもとの思い出づくりに夢中

世界遺産に触れる、富士登山、ヨガ、ケーキ作り・・・チャレンジしたいことはきりがない。でも、朝ちょっと顔を合わせ、夜子どもの寝顔をながめるだけの日も多い毎日。そんな中、やはり何よりも、今は子どもたちと過ごす時間を一番大切に、めいっぱい楽しみたい！いっしょにどこかへ出かけたり、キャッチボールをしたり…。子どもたちに相手にしてもらえなくなる日もそう遠くないかもしれない。



野口めぐみさん
(白岡東在住)
家族：夫、長女（中1）、長男（小2）

家族のきずな

今となっては、大変だったことも覚えていない。

出産後は家事・育児に専念。夫の転勤が多いので、その土地の環境に早く慣れたいという気持ちもあって、子どもが2歳ぐらいから病院に勤務した。転校は、子どもたちに負担がかかっているのを感じた。そのため、夫の実家の近くである、白岡に落ち着いた。

再就職して初めて子どもが病気になったとき、夫が「交替で休もう」と言ってくれた。実際に休んだことはなかったが、その一言がうれしかった。仕事を続けていく一歩を踏み出せたと思う。また、多くの同僚や夫の両親に助けてもらったことに感謝。

ほっとするのは、一日が終わり家族で食卓を囲んだとき。子どもとの

「大変だった」「苦労した」という言葉が意外に少なく、驚きました。それよりも、「自分自身が子育てを楽しもう」「悩むよりもまず、やってみよう」というポジティブな気持ちが共通して大きいことがとても印象的でした。また、夫や親族、地域の方々の理解と協力も、皆さんの心の支えとして、大変重要であると感じました。さあ、立ち止まらず、はじめてみませんか。みなさんの現在を楽しみましょう!

会話を最優先している。夕食のビールも毎日の楽しみ。

仕事への思い

環境や公害に興味があって、高校の先生の先生に将来について相談したところ、「環境問題は経済から変えないとうまくいかない」といわれ、人と関わる仕事に就こうと考え看護師となった。

以前は、病棟の仕事がしたいと考えていたが、今は外来の仕事も大切だと感じるようになった。また、楽しさや充実感も得ることができたし、その充実感が必要だと思う。資格を持っていたことで、転勤にも対応できたことは良かったと思っている。



やっぱり子育てが一番!

子育て、仕事、家事をこなしているが、大変なときは、家事は週末まで後回し!

「何でもとりあえず、やってみれば!」と言いたい。やってみれば何とかなるもの、できなければ、やめれば良いと思う。忙しそうなお妻を見ても夫は変わるかも!

白岡のおともだち、大集合

— 白岡町スポーツ少年団の研修会におじゃましました —



NOV.11'06

篠津小学校体育館

ケガの予防ストレッチ体操



きらっと輝いて!

手話サークルありの実会 会長 弓木和子

手話サークルでは、聴覚障害者とともに毎週手話や福祉の勉強をし、お花見会、クリスマス会等で交流を深めています。また、ふるさとまつりでの手話コーラス披露、手話講習会の通訳、小・中学校の手話講座の手話指導を聴覚障害者と一緒に行っています。幅広い会員層で年齢、性別、職業に関係なく楽しく活動しています。手話は難しく、覚えるのに何年もかかりますが、聴覚障害者と手話で話しが通じた時「手話は心」と実感しました。この気持ちをいつまでも大切に手話を続けていきたいと思っています。最近では、白岡町の手話通訳派遣に向けて高度な手話通訳の勉強をしている仲間も増え、町の福祉向上に協力したいと思っています。手話を勉強してみたい方の参加をお待ちしています。

問合せ先 社会福祉協議会 TEL92-1746

編集後記



落合利次（編集委員長）

子育ても、仕事も楽しむお母さん。支えるお父さんの姿も目に浮かびました。

鈴木園江（副編集委員長）

なるほど！と思うことがたくさんありました。素敵なママたち、ありがとう。

石井久美子（編集委員）

3人のママたちに、勇気と元気、いただきました。

鈴木多美子（編集委員）

パワフルな三人の姿が、少しでも励みになることを願います。

鈴木水弘（編集委員）

仕事も家庭も“楽しむ”ってこと、大事ですよ。

表紙デザイン 編集委員 鈴木水弘

発行
編集

白岡町町民活動推進課 TEL 0480(92)1111 内線352
FAX 0480(92)9096
E-mail theyoukatsu@town.shiraoka.lg.jp

しらおか男女共生広報紙編集委員会
ご意見、ご感想をお待ちしています。



地球環境保護のため再生紙を使用しています。